

高等教育機関の障害学生支援における キャンパスソーシャルワーク

筑波大学人間系 大村 美保

*筑波大学ヒューマンエンパワメント推進局(BHE)

アクセシビリティ支援チーム・スーパーバイザー(ソーシャルワーク)

*東京大学・障害と高等教育に関するプラットフォーム(PHED)

SIG-CSWメンバー

本日の内容

高等教育機関における障害学生支援部門が持つべきソーシャルワークの機能についてお話しします

キャンパスソーシャルワークは、典型的には、法や制度などの根拠が異なる複数の社会資源を活用することがあり得る障害学生が、修学を含む生活をコントロールするのを支えます

ソーシャルワーク＝社会福祉士・精神保健福祉士によって行われるものと考えられがちですが、障害学生支援においてはソーシャルワーク専門職を配置すればよいのではなく、障害学生支援を行う上での中核的なマインドセットや機能として捉える必要があります

ソーシャルワーク

- ✓ 専門職的な活動として始まったのは産業革命後に近代都市が出現したのちの19世紀中頃以降から
- ✓ 国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW):各国のソーシャルワーカーの専門職組織の連合体. 国連経済社会理事会(ECOSOC)、国連児童基金(UNICEF)の特別諮問組織
- ✓ 日本では社会福祉士、精神保健福祉士(国家資格;名称独占)がソーシャルワーク専門職として位置付けられる
- ✓ 登録者数:社会福祉士286,740人、精神保健福祉士103,754人
(2023.6.30現在)
- ✓ 伝統的には生活困窮、児童、高齢、障害などの分野で脆弱な対象者に対して施設・事業所や病院などにおいて活動するが、最近では刑事司法分野や産業分野、学校でも求められるように

ソーシャルワークとは

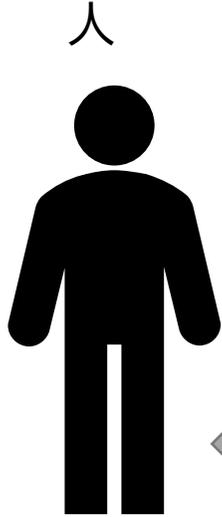
ソーシャルワークとは

✓ ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。

(国際ソーシャルワーク学校連盟/国際ソーシャルワーカー連盟(2014)ソーシャルワーク専門職のグローバル定義)

✓ ソーシャルワークとは社会福祉援助のことであり、人々が生活していく上での問題を解決なり緩和することで、質の高い生活(QOL)を支援し、個人のウェルビーイングの状態を高めることを目指していくことである。

(日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会(2003)ソーシャルワークが展開できる社会システムづくりの提案)



人

B(生物)
P(心理)

S(社会)
=環境



パートナー
家族
友人

コミュニティ
学校 職場 サー
クル 団体

社会 慣習
制度 法律
国家



①



③



②

ソーシャルワーク
Social Work

Person in the situation(状況の中の人)

ソーシャルワークの目標

1. 人の問題解決能力・対処能力、有効に機能するための能力を強化すること
2. クライアントと必要な資源との橋渡しをすること
3. ソーシャルサービス提供ネットワークを改善すること
4. 社会政策の形成を通じて社会正義を推進すること

ソーシャルワークの機能

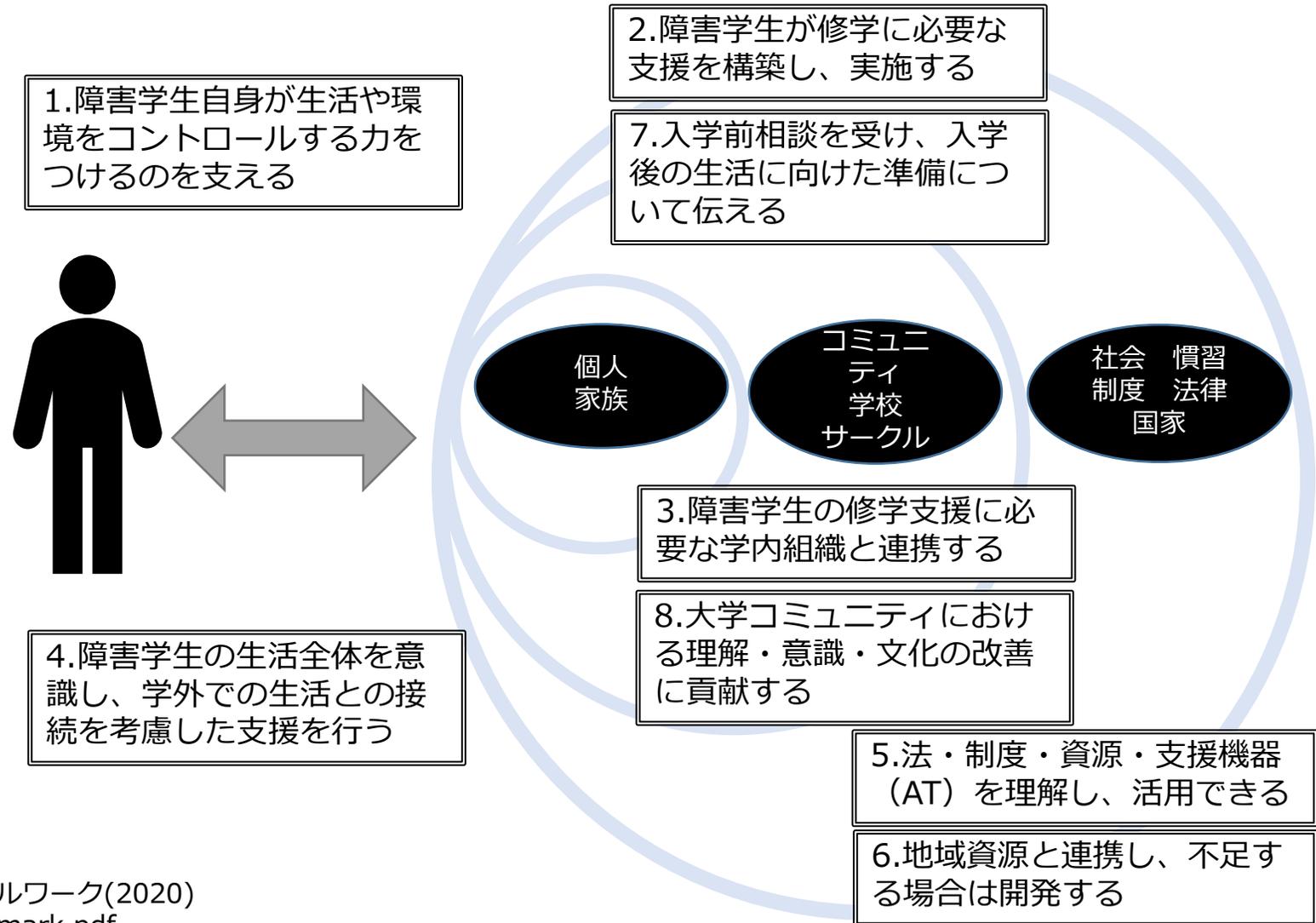
ソーシャルワークの機能

- ① 人々の問題解決能力や対処能力等を強化するという目標を達成するため、事前評価、診断、発見、相談、援助、代弁・能力付与等の機能を遂行する
- ② 人々と資源、サービス、制度等を結びつけるという目標を達成するため、組織化、紹介、ネットワーキング等の機能を遂行する
- ③ 制度の効果的かつ人道的な運営を促進するという目標を達成するため、管理/運営、スーパービジョン、関係者の調整等の機能を遂行する。
- ④ 社会政策を発展させ改善するという目標を達成するため、政策分析、政策提案、職員研修、資源開発等の機能を遂行する

全米ソーシャルワーカー協会編(1997)ソーシャルワーク実務基準および業務指針

キャンパス・ソーシャルワークの視点

- ✓ 大学における障害学生支援は、断片的な情報による短期的な問題解決にとどまるのではなく、**より総合的目つ中長期的なプロセスを意識した対応が必要**
- ✓ 障害学生支援部署やその担当者においては、全てのプロセスを通じて、**学生との対話がもっとも重要であり、学生自身の自己決定を尊重するという態度が必要**
- ✓ 障害学生支援は、**大学における権利保障の取り組み**であると同時に、それそのものが**エンパワメントの象徴**であると考えべき
- ✓ 様々なレベルの環境的要因を的確に把握して、**有効に連携したり、既存の資源では足りない部分を創出することも重要**



キャンパス・ソーシャルワークの一例

《学外実習》

- ✓ 学年が進行するにつれて重度化
- ✓ 易疲労、長時間の座位保持が難しく
- ✓ 簡易電動車椅子（ティルト・リクライニングなし）
- ✓ トイレ後に着衣を整える介助が必要
- ✓ 家族が実習日程すべては送迎が困難

1.障害学生自身が生活や環境をコントロールする力をつけるのを支える

2.障害学生が修学に必要な支援を構築し、実施する

3.障害学生の修学支援に必要な学内組織と連携する

4.障害学生の生活全体を意識し、学外での生活との接続を考慮した支援を行う

5.法・制度・資源・支援機器（AT）を理解し、活用できる

6.地域資源と連携し、不足する場合は開発する

7.入学前相談を受け、入学後の生活に向けた準備について伝える

8.大学コミュニティにおける理解・意識・文化の改善に貢献する

《認知特性による修学への影響》

- ✓ 発達障害
- ✓ 離れて暮らす家族との関係性が修学や生活に影響
- ✓ 特定の教員に対して陰性感情を頻繁に表出
- ✓ スケジュール管理が困難
- ✓ 精神科以外の診療科でも受診・治療あり

1.障害学生自身が生活や環境をコントロールする力をつけるのを支える

2.障害学生が修学に必要な支援を構築し、実施する

3.障害学生の修学支援に必要な学内組織と連携する

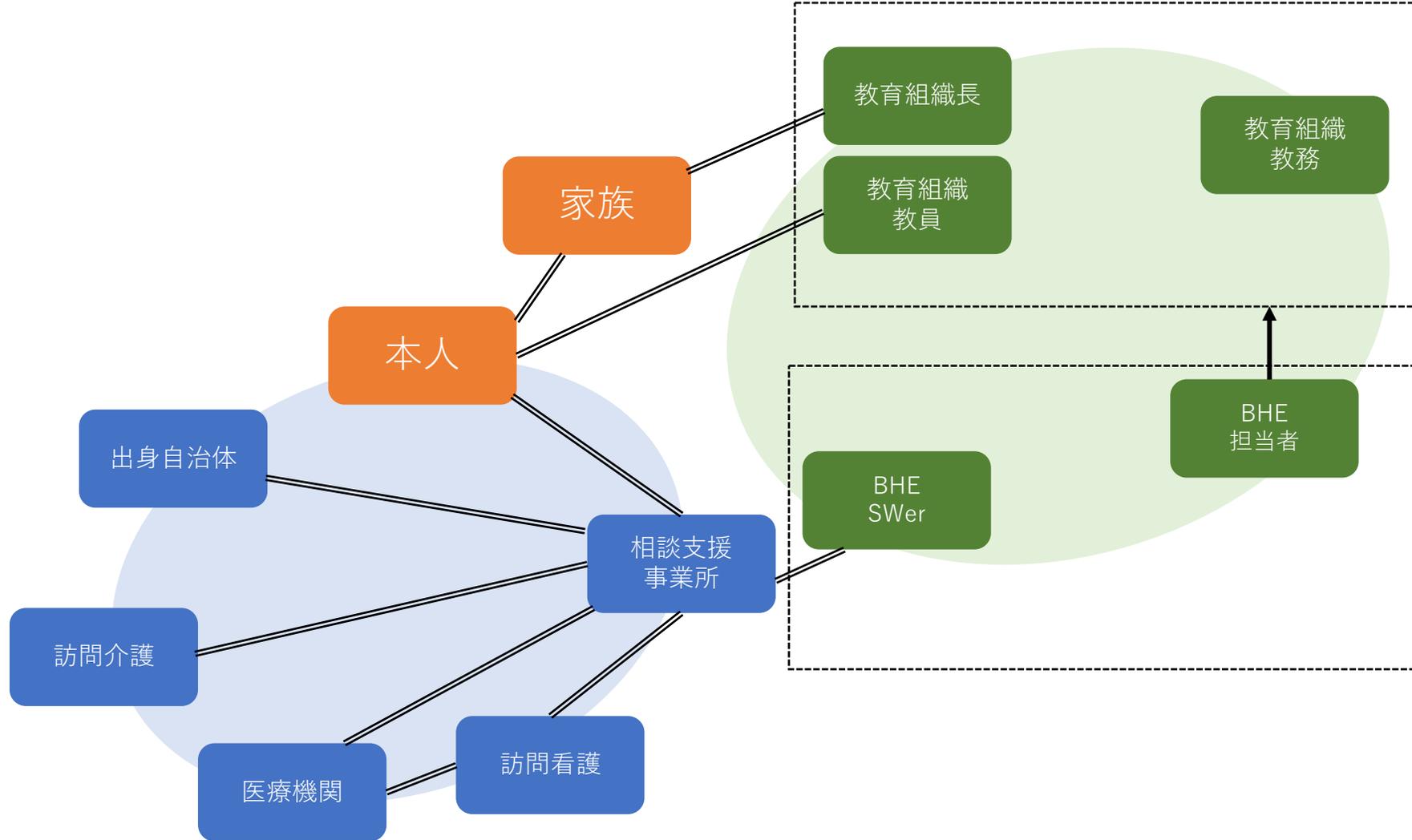
4.障害学生の生活全体を意識し、学外での生活との接続を考慮した支援を行う

5.法・制度・資源・支援機器（AT）を理解し、活用できる

6.地域資源と連携し、不足する場合は開発する

7.入学前相談を受け、入学後の生活に向けた準備について伝える

8.大学コミュニティにおける理解・意識・文化の改善に貢献する



ソーシャルワークで大事にしたいこととその効果

個性と価値の支持

人間性の承認

個性を承認する
ダイバーシティを尊重する

《よくある間違い》
ステレオタイプ化、中傷、ラベリング

自己決定の促進

パートナーシップ 対処能力の向上

代替手段を開発する 選択肢を示す
役割について詳細に説明する

《よくある間違い》
コントロール、アドバイス、パターンリズム

中立的かつ受容的な コミュニケーション

開放性 警戒心の低減

ストレングス的視点
積極的傾聴 共感

《よくある間違い》
非情、同情と哀れみ、欠点への注目

客観性の獲得

合理的承認

視座の獲得

《よくある間違い》
過剰な同一化、冷淡さ、よそよそしさ

本日の内容

高等教育機関における障害学生支援部門が持つべきソーシャルワークの機能について話しました

キャンパスソーシャルワークは、典型的には、法や制度などの根拠が異なる複数の社会資源を活用することがあり得る障害学生が、修学を含む生活をコントロールするのを支えます

ソーシャルワーク＝社会福祉士・精神保健福祉士によって行われるものと考えられがちですが、障害学生支援においてはソーシャルワーク専門職を配置すればよいのではなく、障害学生支援を行う上での中核的なマインドセットや機能として捉える必要があります